

未来の子どもたちに残したいマチへ マチごとエコタウン所沢

第34号



# 環 境 会 報

所沢市環境推進員連絡協議会

## 食物連鎖の頂点にいる責任として壮大な生命の環を守る

所沢市環境推進員連絡協議会 会長 毛利 吉成

さわやかな秋風が吹く季節、皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。

台風15号は、千葉方面に甚大な被害を及ぼし、特に、停電、断水に加え35度越えの酷暑、さらに日をおいての雷を伴う大雨等、ライフラインの被害は市民生活に大きな影響を与えています。心からお見舞い申し上げます。

日頃、環境推進員として所沢市の環境に関わる施策展開に際しましては、自主的な実践活動により、快適で住みよい環境をみんなで作り上げていくことを目的に啓発・普及活動の環境オピニオンリーダーとしてご協力をいただき、活動されておられます。心から感謝申し上げます。次第です。

今、生物多様性が危機に晒されています。多くの生き物が絶滅の危機にあることは、周知のとおりです。

地球上には、推定3,000万種と言われる生物がいるとの事。恐竜時代の数百から数千倍の速さで絶滅しているそうです。

「地球温暖化」、「種の減少・絶滅や生息・生育地の減少」、「森や湿地の減少」、「外来種による生態系のかく乱」などが大きな原因です。

これらの事は、日常生活の中で気がつくことが多々あります。少し気をつけるだけで「生物多様性」を守れる行動に参画出来る場面があるかもしれません。

小学生のころ、田んぼや川で、泥だらけになってザリガニや魚獲りに夢中でした。森や、野原でトンボや蝉、バッタ、カブトムシと遊びました。

また、昭和45年に上山口に住んだ頃、ホテルが、



庭に飛んできて「蛍の光」でした。あの頃に戻る事は出来ませんが、私たち人間は、自然から様々な恩恵を受け食物連鎖の頂点にいる壮大な生命の環を織りなして暮らしています。

それを繋ぐ鎖は、「絆」です。優しくしっかりと紡いでいく責任があります。「善きふるさと所沢」の緑や水そして生物環境を現状維持の状態に保ち次代につなげていきたいものです。みんなで。

なお、令和元年度の役員は次の方々ですよろしくお願いたします。

- 会 長 毛利 吉成 (山口地区)
- 副会長 片居木 栄 (小手指地区)
- 副会長 鈴木 由紀子 (吾妻地区)
- 副会長 宮高 隆 (並木地区)
- 会 計 久下 紀世 (新所沢地区)
- 会 計 宮沢 勝利 (新所沢東地区)
- 監 事 荒木 孟 (柳瀬地区)
- 監 事 荻野 義雄 (三ヶ島地区)



所沢市はマチごと、プラスチックごみ削減に取り組むことを宣言しました

## プラスチックごみゼロに向けての活動

小手指地区環境推進員協議会

会長 片居木 栄 副会長 並木 幹郎・大館 繁・大館 信治・指田 栄一 会計 関口 典男 監事 平野 俊浩・上田 恵子

当地区は、地域も広く72の自治会（登録自治会69）があります。現在、133名（代表者69名）が委嘱を受けている大きな組織となっており、事業参加者も多い地区となっています。所沢市では、2018年12月20日に市長が「マチごとエコタウン所沢構想」の精神に基づき、マチごと、プラスチックごみ削減に取り組むことを宣言しました。審議会や検討会等で飲み物を提供する際には、マイボトルの利用や、ピッチャーでの提供を進めることを依頼されています。

これを受けて当協議会では、事業（もったいない市、歩きたばこ等防止啓発キャンペーン、環境推進員代表者会議等）に参加いただいた環境推進員などに提供していたお茶をペットボトルから紙パックに変更したり、参加人数によってはウォータージャグを用意し紙コップで対応するなど、ワンウェイのプラスチック削減を目

標に、できるだけ使用しないよう対応しているところです。また、小手指地区を横断するように流れている東川については、河川流域の自治会や団体の協力を得て、一斉清掃活動を行うなど東川敷地内の廃プラスチックを含めたごみの撤去を行っています。最近では、ホテルの観賞会が開かれるなど子供たちに豊かな自然を残せるような取り組みも行っています。市民一人一人が、プラスチックごみの発生を抑制する、適正に処理することなどが必要になりますが、小手指地区環境推進員協議会として取り組むことができることは今後も継続し、また新たに対応可能なことについて検討していきたいと思っております。



## 海ごみゼロに向けたプラスチックごみ削減の取り組み

山口地区環境推進員協議会

山口地区では昨年の春からプラスチックごみによる環境汚染に注目し、役員会などで情報交換を行うとともに協議会として何ができるのかを考えてきました。今年度に入ってから、具体的な行動を開始し、春の環境美化の日には環境省と日本財団の共同事業「海ごみゼロウィーク」への参加とプラスチックごみによる海洋汚染防止を市民にアピールしました。春のもったいない市では、活動に参加した推進員へのペットボトル飲料の配布を止め、マイボトル持参に変えるとともに会場には冷たい麦茶を入れたサーバーを用意しました。いざ実行するとなるとかなりの手間がかかることも分かりましたが、便利さがもたらす弊害を考えれば当然のことかも知れません。山口地区のもったいない市では毎回アンケートを行っており、今回はプラスチックが海洋汚染の原因になっていることを知っているか否かをたずねたところ、97%の人から知っているとの回答を得ました。この認知度の高さは、すでに具体的な行動を起こす地盤ができていることを示していると考えられます。9月に入ると視察研修旅行をはじめ、秋のもったいない市等々、いろいろな行動が続きます。それら

の機会を利用してプラスチックごみ削減に向けた啓発と具体的活動を展開していくのが今後の課題です。



春の環境美化の日：  
ごみの集積所で海ごみゼロを呼びかけました。



春の環境美化の日：  
青いバンダナを付け「海ごみゼロウィーク」に参加しました。



春のもったいない市：  
ペットボトル飲料の配布を止めました。

# 食品ロスを減らしましょう

資源循環推進課



所沢市HP「食品ロスを減らしましょう」

食品ロスとは、まだ食べられるのに捨てられてしまう食品のことです。日本で発生する食品ロスは年間約643万トン（平成28年度）。これは、世界全体の食糧援助320万トン（平成27

年度）の約2倍です。「食品ロスの削減の推進に関する法律」が令和元年5月31日に交付されました。食品ロスは環境負荷の増大だけでなく、事業者にとっては仕入れ・廃棄コストの増大につながることから、国民各層がそれぞれの立場においてこの課題に取り組むよう求められています。ここでは家庭での食品ロスを減らす方法3例を挙げたいと思います。①食材の買い物をする際には使いきれぬ量を買ひましょう。買い物前に冷蔵庫の中を確認したり、空腹で買い物に行かないというのもポイントです。②料理では、

下ごしらえや冷凍保存等を行い、傷みやすい食材は早めに使い切ることを心がけましょう。捨ててしまいがちな野菜の茎や皮もちょっとした工夫で1品料理になります。市のHPで公開している「トコとん！！クッキング」レシピもぜひ参考にしてください。③食事では、食べきれぬ量をお皿に盛り、残った料理はアレンジを加えるなどして早めに食べきりましょう。また、外食の際には、食品ロス削減の取り組みを行っている「食品ロスゼロのまち協力店」を積極的にご利用いただき、身近に取り組みを行う飲食店等がありましたら、ぜひ市役所までご紹介ください。協力店は市のHPで紹介しています。



↑協力店の目印です。

# 毎月22日は「エコ・モビリティの日」!

～考えてみよう。環境のこと～

環境政策課

所沢市域全体から排出される二酸化炭素(CO2)のうち、運輸部門からの排出量は全体の3割を占めている状況です。地球温暖化の抑制のために、自動車利用の削減や地球にやさしい交通手段の利用が重要です。

## ■私たちがとりまく課題

■市域のCO2排出量 部門別割合

運輸部門	29%
民生家庭部門	29%
民生業務部門	26%
産業部門	15%
廃棄物部門	1%

### 地球温暖化

地球温暖化の抑制は待ったなしの状況です。温室効果ガスの継続的な排出は、人々や生態系にとって深刻で広範囲にわたる、取り返しのつかない影響を生じる可能性があります。

私たちの暮らしから排出されるCO2量のうち、自家用車からの排出が最も多く、約3割を占め(図1)、削減のために取り組む必要があります。

### 大気汚染

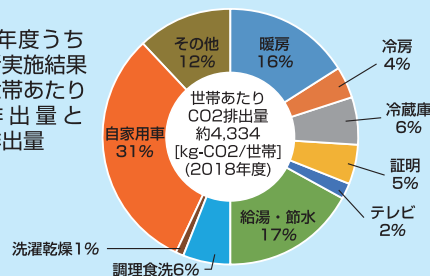
ガソリン、軽油等が燃料の車からの排ガスには、窒素酸化物(NOx)、浮遊粒子状物質(SPM)等の大気汚染物質が含まれています。

※右図:「平成30年度 一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット事業報告書」より作図

### ヒートアイランド現象

ヒートアイランド現象の原因は、①人工排熱の増加、②地表面被膜の人工化、③都市形態の高密度化です。①の原因の一つに、車からの排熱があります。

図1 平成30年度うちエコ診断実施結果による世帯あたりCO2排出量と分野別排出量



## ■具体的な行動へ

- 移動の手段として、公共交通機関を利用し、近距離の場合には、徒歩や自転車利用をする。
- 車を使用する場合は、エコカー(電気自動車、プラグインハイブリッド車等)の利用や、相乗り等により省エネ化を図る。
- 宅配便は、時間指定又は宅配ロッカーの利用等により、一回で受け取る。

## ■ぜひご利用を!!

市では、地球温暖化や大気汚染の防止・抑制の取組の一環として毎月22日を、マイカー利用を控える「エコ・モビリティの日」に制定しています。22日は、ところバスの一回の乗車料を100円としていますので、ぜひご利用ください。

## ～所沢版RE100～ 「RE100の日」を制定しました 環境政策課



市では、マチごとエコタウン推進計画に基づき、メガソーラー所沢の設置運営や所沢新電力事業の推進など、再生可能エネルギー（以下、「再エネ」）の普及に努め、低酸素社会の実現を目指しています。市域におけるさらなる再エネ普及のために、

昨年6月に藤本市長が表明した「所沢版RE100」の具体的なアクションとして、毎月25日を「RE100の日」に制定し、その日1日の本庁舎・上下水道庁舎・市民医療センターの使用電力を全て再エネにする取組を実施しています。「RE100」とは、企業がその使用電力の構成を再エネ100%にしようとする国際的な枠組みであり、日本では、ソニーやイオン、積水ハウスなど19社（2019年6月現在）が加盟しています。市もその理念に賛同し、再エネの普及に向け着実に歩みを進めています。市域へのさらなる再エネ普及や市民、事業者の皆様の環境配慮意識醸成のため、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

## プラスチック削減に向けて プラスチックごみ削減タスクフォース

これまで国内で排出されたプラスチックごみの一部は、海外に輸出され処理されてきましたが、輸入規制の動きが広がりプラスチックごみの行き場がなくなり、国内でのリサイクル体制の整備など、プラスチックごみへの対応が課題となっています。また、最近、海洋ごみとしてのマイクロプラスチック問題で、マイクロプラスチックを食べた魚を人が食べた場合、健康に影響が出るのでは？と懸念されたり、レジ袋の有料化についてマスコミに取り上げられたりしています。海のない所沢市ですが、川を通じて海とつながっている私たちの暮らし。所沢市では、この問題を他人事と考えず、早急な取組が必要と考え、プラスチックごみ削減に向け動き出し

**❁秋の「環境美化の日」は  
令和元年11月10日(日)です。**

ました。プラスチックが悪者というわけではなく、使う前に本当に必要かを考え、3Rのひとつ「リデュース（ごみの量をできるだけ減らすこと）」に取り組むことが重要です。買い物の時に「マイバッグ」を使えば必要ないレジ袋の削減につながり、海を守ることができるのです。（資源の節約にもなります！）さらに、所沢市では春と秋に『環境美化の日』を実施しています。プラスチックごみが、海に流れ着く前に食い止めましょう。「暮らしの中で、使い捨てプラスチックをなるべく使わない」、「清掃活動に参加する」など、海を守るためにできることはたくさんあります。所沢市は、未来の子どもたちに美しい川や海を残せるよう『マチごとプラスチックごみ削減』に取り組むことを宣言しました。今後所沢市では「市民フェスティバル」をはじめ各種イベントでの周知活動、市内店舗への協力依頼、マイバッグ利用の励行などプラスチックごみ削減に向けた行動を行って参ります。

皆様のご協力をお願いします。



## 編集後記

温暖化ガスや海洋プラごみ（廃プラ）問題は喫緊に処理すべき問題です。海なしの埼玉県土に占める河川面積の割合が全国第一位の埼玉県で、所沢市内を流れる柳瀬川、東川、砂川掘の流域の各地区の環境推進員は、「環境美化の日」等を通じて、海へゴミが流れないように、河川の浄化クリーン作戦を展開中。市もプラスチックごみ削減タスクフォースを設置して、市一丸となって「環境先進都市所沢」を目指しています。

編集委員（◎印は委員長）

◎宮高 隆（並木）、久下 紀世（新所沢）、  
新居 亨一（山口）

事務局：所沢市 環境クリーン部 生活環境課

☎04-2998-9370

所沢市のホームページ

<http://www.city.tokorozawa.saitama.jp/>

トップページ⇒暮らし⇒環境・みどり

⇒生活環境⇒環境推進員連絡協議会についてを選択してアクセスしてください。